

Hidaka

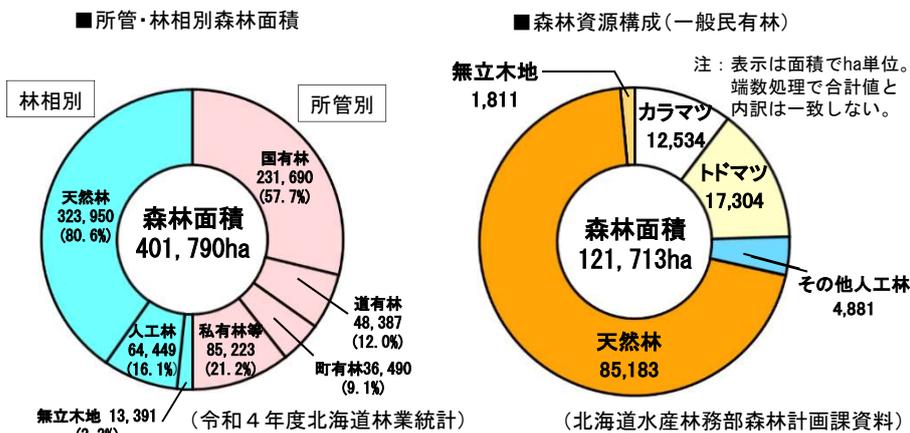
林業

管内には40万2千ヘクタール森林があり、全道の森林面積の約7%を占めています。管内の総土地面積に占める森林の割合は約84%で、これは14総合振興局・振興局の中で最も高く、更に、広葉樹の蓄積量が全道の約10%を占めるなど、豊富な森林資源を有しています。

また、戦後に植林されたカラマツやトドマツの人工林が利用期を迎えており、管内の人工林から生産された材を管内の公共施設や町営住宅の建築部材として利用する「地材地消」の取組や、森林整備の過程で発生した林地未利用材等を木質バイオマス発電や暖房用燃料として供給、利用する施設の整備、木材チップ原料として集荷された広葉樹の丸太から「製材原版」を製作・販売する取組が行われるなど、地域資源の循環利用及び有効活用が進められています。

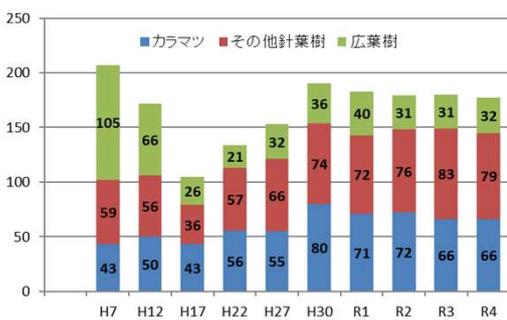


企業と木育マスターが連携した木育活動
【新ひだか町】

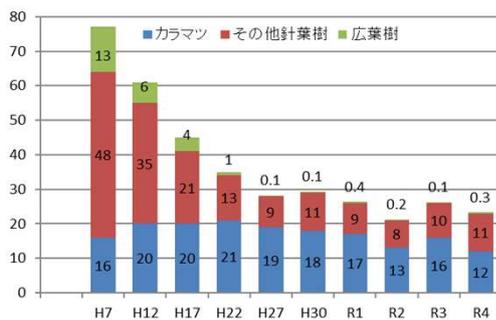


木々の成長を促すための間伐作業
【えりも町】

■素材生産量の推移(千m³)



■製材出荷量の推移(千m³)



■林産関係事業体数の推移

年度 種類	年度															
	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4						
製材	18	12	10	5	5	5	5	5	5	5						
山棒	7	5	3	3	3	3	2	2	2	2						
背板	18	16	11	5	5	5	4	4	4	4						
バイオマス	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1						
合単板	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0						
パット	3	3	3	1	0	0	0	0	0	0						
集成材	4	3	1	1	0	0	0	0	0	0						
木取加工	4	1	0	0	1	1	1	1	1	1						
木炭	6	5	4	2	0	0	0	0	0	0						
防腐	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1						
プレカット	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1						
その他	8	4	3	3	2	2	2	2	2	2						
合計	76	54	40	25	21	20	18	17	17	17						

(林務課調)

「ICT」を活用した取組

スマート林業の活用に向け、管内各町や林業事業者などへ「ICT」技術の情報提供や活用研修、機器の貸出による試行支援を行っています。

人工衛星測位システム（GNSS）を、さらに基地局からのデータで補正することにより数cmの誤差で測位できる技術「RTK測位」は、建設業、農業、自動車産業など様々な分野で活用されていますが、北海道の林業の現場で利用するためには基準局を増やすことが課題となっています。

先の試行で好感触を得た沙流川森林組合は、RTK測位機材を導入するとともに職員有志で「善意の基地局」を設置し、無料で公開するなど課題解決に向けて取り組んでいます。

このような取組や情報を活用し、今後もスマート林業の推進を図っていきます。



「善意の基地局アンテナ」設置